

令和元年度 社協部会全体会

社協部会報告書

【東圏域】

令和2年2月10日(月) 13時30分～16時

於:四谷保健センター 多目的室

【中央圏域】

令和2年2月 6日(木) 13時30分～16時

於:新宿区社会福祉協議会 会議室A

【西圏域】

令和2年2月 5日(水) 13時30分～16時

於:新宿区社会福祉協議会 会議室A



社会福祉法人 新宿区社会福祉協議会

目 次

■ 社協部会について	・・・1
■ 各地区社協部会委員紹介	・・・4
■ 各地区部会委員名簿	・・・6
■ 各地区社協 部会報告	
四谷地区社協部会	・・・ 8
箆笥町地区社協部会	・・・13
榎町地区社協部会	・・・17
若松町地区社協部会	・・・21
大久保地区社協部会	・・・23
戸塚地区社協部会	・・・26
落合第一地区社協部会	・・・28
落合第二地区社協部会	・・・30
柏木・角筈地区社協部会	・・・34
■ 「多世代にわたる地域での支えあいを進めるための課題及びしくみ」について 令和2年度からの社協の取り組み	・・・37

社協部会について

社協部会について

1 部会の設置根拠等

(1) 社会福祉法人新宿区社会福祉協議会定款 第34条

「部会は、専門的事項について、この法人の運営に参画し、
或いは会長の諮問に答え、又は意見を具申する。」

(2) 社会福祉法人新宿区社会福祉協議会部会規程

(部会の設置)

第2条 協議会に、社協部会と推進部会を設置する。

- 2 社協部会は、新宿区の特別出張所所管区域ごとに設置する。
ただし、地域の実情に応じて合同で設置することができる。
- 3 推進部会は、各社協部会の代表委員等による協議体とする。

社協部会について

2 所掌事務

(1) 社会福祉法人新宿区社会福祉協議会部会規程 (所掌事務)

第4条 部会は、理事会の補助機関とする。

2 社協部会は、次に掲げる事項を所掌する。

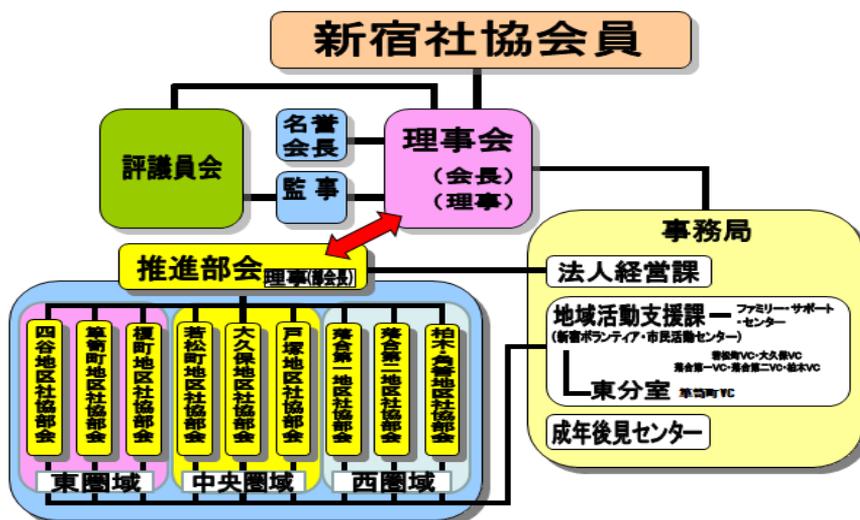
(1) 新宿区社会福祉協議会経営計画（以下、経営計画という。）

の事業実施を通じて、解決すべき地域課題について協議、提言する。

(2) その他、会長が必要と認める事項

社協部会について

3 社協部会の位置づけ【社協組織全体図】



令和元年度の社協部会について

■検討テーマ

「多世代にわたる地域での支えあいを進めるための課題及びしくみへの提案」

H28、29年度は「高齢者の生活を地域全体で支えるしくみづくり」について、H30年度は「高齢者の生活を地域全体で支える取組みの実践及び継続」について検討を進めてきました。話し合いの中で、各部会から、「高齢者の生活を支えるためには、高齢者を地域全体で支えていく必要がある」「多世代で交流をする必要性」「高齢者だけでなく、子ども、障害者、地域住民を支えていくしくみについて検討したい。」等、意見として提言いただきました。

また、国は高齢者を地域全体で支えるための「地域包括ケアシステム」の構築を推進していく中で、これをさらに進化させ、困難を持つあらゆる人を地域で支えるためのしくみとして、“高齢者・障害者・子どもなど全ての人々が、一人ひとりの暮らしと生きがいをともに創り、高め合う社会”である地域共生社会の実現を目指すこととしています。これらの国の動向も踏まえ、今年テーマは対象を多世代とし、地域全体での支えあいを考えるため、令和元年度の1年間（5月、8月、11月）で検討いただきました。

令和元年度 各地区社協部会委員の紹介

東圏域（四谷・箆笥町・榎町）



【四谷地区】

【箆笥町地区】



【榎町地区】



中央圏域（若松町・大久保・戸塚）



【大久保地区】



【若松町地区】



【戸塚地区】

西圏域（落合第一・落合第二・柏木・角筈）



【落合第一地区】



【落合第二地区】



【柏木・角筈地区】

令和元年度 各地区社協部会委員名簿 (令和2年2月1日現在【敬称略】)

◎ 部会長 ○ 副部会長 ★ 推進部会委員

地区	No.	委員名	選出分野	地区	No.	委員名	選出分野
四谷	1	藤井 公子	民生委員・児童委員協議会	若松町	1	永井 節美	民生委員・児童委員協議会
	2	窪田 征夫	町会・自治会		2	多賀 敏雄 ◎	町会・自治会
	3	大友 敏郎 ◎	地区協議会		3	田邊 一枝	地区協議会
	4	梅田 真一郎	高齢者総合相談センター		4	小田 洋子	高齢者総合相談センター
	5	秦 実千代 ★	介護事業所等		5	霜田 えり	介護事業所等
	6	島根 久子	地域活動者(サロン)		6	小野寺 翔	施設団体(障害者)
	7	後藤 静恵	地域活動者(社協ボランティア)		7	芳賀 典子 ★	地域活動者(カフェ)
	8	村中 知恵	施設団体(若年認知症)		8	中村 尚子 ○	地域福祉団体(子育てサロン)
	9	宮越 裕子 ○	施設団体(児童・子育て)		9	永田 良忠	地域活動者(社協ボランティア)
筆筈町	1	室澤 一三	民生委員・児童委員協議会	大久保	1	森田 恵美子 ○	民生委員・児童委員協議会
	2	津吹 一晴 ◎	町会・自治会		2	竹内 和正 ◎★	町会・自治会
	3	永桶 八重子	地区協議会		3	守重 有子	地区協議会
	4	大塚 香	高齢者総合相談センター		4	細淵 裕子	高齢者総合相談センター
	5	根田 一成	介護事業所等		5	高岡 宏	介護事業所等
	6	東内 純子 ○	地域活動者(社協ボランティア)		6	藤木 千恵	介護事業所等
	7	平尾 輝子 ★	地域活動者(家族介護者会)		7	古澤 啓代	調剤薬局
	8	小林 一江	施設団体(高齢者)		8	加藤 登美子	地域活動者(高齢者食事グループ)
	9	沖 亜矢	施設団体(子育て)		9	宮川 淡	地域活動者(社協ボランティア)
榎町	1	永井 聖子	民生委員・児童委員協議会	戸塚	1	保延 千恵	民生委員・児童委員協議会
	2	中村 廣子	町会・自治会		2	白子 君代	町会・自治会
	3	伊藤 京子	地区協議会		3	村田 芳子 ○	地区協議会
	4	真田 秀平	高齢者総合相談センター		4	松崎 哲平	高齢者総合相談センター
	5	野津 禎二	介護事業所等		5	塩川 隆史	介護事業所等
	6	太田 健治	施設団体(高齢者)		6	長谷川 淳	施設団体(高齢者)
	7	貝田 千恵子 ◎	地域活動者(サロン)		7	仲村 智恵 ★	NPO法人(介護者支援)
	8	細谷 理恵子 ★○	地域活動者(社協ボランティア)		8	小林 比呂子 ◎	施設団体(高齢者)
	9	小菅 知三	NPO(子育て支援)		9	浅川 毅	地域活動者(社協ボランティア)

地区	No.	委員名	選出分野	地区	No.	委員名	選出分野
落合第一	1	津田 和子	民生委員・児童委員協議会	柏木・角筈	1	横山 和子	民生委員・児童委員協議会
	2	片野 通子	町会・自治会		2	岡崎 淑子	民生委員・児童委員協議会
	3	森山 崇 ○	地区協議会		3	田中 稔	町会・自治会(柏木地区)
	4	塩野 智夫	高齢者総合相談センター		4	関根 トシ子	町会・自治会(角筈地区)
	5	森岡 真也	介護事業所等		5	竹内 洋一 ◎	地区協議会(柏木地区)
	6	森本 豪	施設団体(高齢者)		6	鮎沢 繁利 ○	地区協議会(角筈地区)
	7	中山 利彦	施設団体(子ども)		7	伊藤 愛子	高齢者総合相談センター
	8	松田 智子 ★	地域活動者(サロン)		8	吉田 かおる	介護事業所等
	9	長崎 恵子 ◎	地域活動者(高齢者食事グループ)		9	高橋 秀子 ★	地域活動者(サロン・福祉教育)
落合第二	1	久田 光子 ○	民生委員・児童委員協議会		10	高橋 久子	施設団体(障害者)
	2	工藤 広子	町会・自治会		11	井原 敬子	地域活動者(食事グループ)
	3	横 カネ子	地区協議会		12	中島 芳江	地域活動者(食事グループ)
	4	田中 亮太	高齢者総合相談センター				
	5	丸山 めい	施設団体(高齢者)				
	6	佐伯 俊悦 ◎	施設団体(高齢者)				
	7	篠原 吉紀	介護事業所等				
	8	佐藤 雅明 ★	地域活動者(サロン)				
	9	堀口 梓	施設団体(障害者)				

異動等により退任された委員	鈴木 隆(筆筈町)
	青柿 亘(大久保)
	旗野 映子(柏木・角筈)

各地区
社協部会
報告

社協部会全体会報告【東圏域・四谷地区】

◆「多世代にわたる地域での支えあいを進めるための課題及びしくみへの提案」について

1 検討の方向性

多世代にわたる住民のつながりのきっかけづくりのために、地域でゆるやかに見守り、声をかけあい、あいさつをすることが重要と考え、昨年度作成した啓発リーフレットをさらに活用し、どのように地域であいさつや声かけしあえるまちづくりを具体的に進めていくか、について検討した。

2 検討の経過

回	開催日	検討内容
1	5月23日 (木)	支えあいのしくみを考えていくために、課題となることを出し合い、多世代交流を行うための具体的な検討を進めた。
2	7月26日 (金)	昨年度の四谷地区社協部会で作成した高齢者支援のためのリーフレットを多世代の住民が対象となる内容に見直し、地域のイベント等に参加して理解を求めるために周知を行うこととした。
3	11月21日 (木)	各委員がリーフレット配布のために参加したイベントでの活動報告を行なった。継続してあいさつや声をかけあえるまちづくりについて提言の検討をした。

3 課題及びしくみへの提案

【課題】

- ・ここ数年急増した集合住宅では、居住者と所有者が異なる、入居者の入れ替わりで近隣住民の顔を知らない、オートロックで民生委員などの見守りが気軽にできないなど課題がある。他者との交流を望まない方もいる。
- ・あいさつやゆるやかな見守りの重要性を伝えても、実際に住民一人ひとりに浸透させていくには時間がかかる。住民同士が気軽に声をかけあい、関係機関に相談できるまちにしておくためには事例の積み重ねが必要。
- ・地域イベントは多く、参加者も多いため、住民同士が知り合う機会はあるが、一過性のイベントになりがちであり、多世代交流できる場づくりへの発展がなく、きっかけやしくみづくりが必要である。
- ・以前、町なかの個人商店が担っていた、多世代が気軽に会話などする井戸端会議ができるような日常的な場があるとよい。

【取り組みに向けた地域の強み】

- ・坂道など地形を考慮し、徒歩5分程度で通える距離で健康体操が活発に行われている（計8カ所）。
- ・地域のイベントには親子や高齢者の参加者が多い。
- ・地域住民は口コミ等による伝達力があり、地域イベントに参加者が多く集まる。
- ・部会委員は複数の地域活動に属しているため、普及啓発を行う機会を得やすい。

【部会委員が取り組んでいる支えあい活動】

- ・地区協議会、育成会による「四谷子ども見守り隊」としての、通学路でのあいさつ運動
→ 10年前と比べると挨拶をする児童が多くなった。この取組は教師にも広がりを見せた。
- ・町会行事（もちつき大会、夏休み子ども祭り）
→ 輪投げ大会などは多世代交流できる機会となっている。

- ・施設での定期的なイベントの実施
→ 施設利用者だけでなく、近隣住民はじめ、子どもたちと交流する機会を設けており、子どもがトイレの利用に立ち寄るなど、地域に開放されてきている。

【具体的な取り組み】

別紙参照

【イベント等で普及啓発をした委員の感想】

- ・子育て世代から高齢者まで、好意的にリーフレットを受け取ってくれた。子育て世代や高齢者からも「あいさつなど声のかけあいがあると安心する」との声があった。
- ・地域イベントは多数あり、その参加者も非常に多く、地域の活性化を願う住民の方々の熱心な活動をあらためて感じる事ができた。
- ・今年度は部会作成のリーフレットをツールに普及活動を行ったが、結果はすぐに住民に見えないため、継続して「声をかけあい、ゆるやかに見守っていこう」ということを伝えていかないといけない。
- ・多世代で交流する具体的な取り組みは少ないため、育成会主体の小学校の通学路での「あいさつ運動」に高齢者が最寄りの活動場所に参加するなどあってもよいと思った。
- ・四谷ひろばで実施したあいさつ運動と連動したスポーツ文化フェスタでは、高齢者向けの体力測定に多くの子どもの参加があった。自然と多世代交流となっていると感じた。
- ・施設イベント（ミモザかふえ）では、子どもたちとの交流の機会もあるので、声をかけあう・あいさつをするということを地道に続けていきたいと思った。
- ・リーフレットの配布をきっかけにすると、地域イベントに委員も参加し声をかけやすい。「みんなで声かけしあおう！ あいさつをしよう！」ということを委員は意識的に声かけしていく。

【提言】

- (1) あいさつや声かけの必要性を継続的に伝え続ける。
 - ・部会委員各々が、地域のつながりの必要性を意識しながら伝えること。
 - ・いつか気づく人がいるため、返事がなくても声をかけ続ける。
 - ・あいさつや声かけをする人たちのつながりが、どのように広がるか継続的に考えていくこと。
 - ・あいさつをすることで一過性にとどまらないイベントになる可能性もある。多世代交流にこだわらず、それぞれの活動からつながっていくことも期待できる。
 - ・住民の生活環境、価値観の違いを理解し、自分たちで違いに合わせていくことも必要である。
- (2) 地域での福祉教育の実施
 - ・ゆるやかに見守り、声をかけあうきっかけづくりの視点を持ち、小学校等での福祉教育を続けること。
- (3) 情報の発信
 - ・委員それぞれの立場の地域・施設イベント、地区協議会・社協のSNS、地域の会合などで「地域のみんで、声かけやあいさつ、ゆるやかに見守りをして関係機関につなぐ」とことを発信し続け、協力・理解者を増やしていくこと。
- (4) 部会でのつながりを活かすこと
 - ・それぞれの専門性を活かし、互いに相談しあい、委員が所属する組織でもつながりを意識しあえる環境を作っていくこと。

【具体的な取り組み】

添付のリーフレットを下記イベントで配付した。

①四谷ひろばフェス 2019 (6/16(日) 委員参加 2名 配付数 50枚)

【イベント内容】四谷ひろばをはじめ地域の活動団体が出展し、地域活動の紹介や地域交流を行うイベント。

(委員の声) 子ども連れの家族が多く、記載内容に関心をもってもらい、自分の親に関する相談もあった。町中では会話や声かけが少なくなったと感じると感慨深く話す方もいた。



②坂町ミモザの家主催「ミモザカフェ」(8/4(日) 委員参加 2名 配付数 40枚)

【カフェの内容】施設と地域の交流の場としてカフェを開催

(カフェ参加者の声) 安心・安全につながる協力や活動をしたい。

(委員の声) 地域の施設やイベントに参加して、顔見知りをつくることで、まちで会ったとき、声がかげやすくなる。



③談話サロン～遊庵～ (8/7(水) 委員参加 1名 配付枚数 9枚)

【サロン内容】気軽に立ち寄れて、参加者同士が会話を楽しむ「談話」をすることが中心のサロン

(サロン参加者の声) 声かけの重要性は理解するが、見知らぬ人に声をかけるのは躊躇する。声をかけなくても、さりげなくの見守りはできそうである。

(委員の声) 声はかけられなくても、社協のように身近な相談窓口を知っているだけで、つなぐことはできる。そのため、様々な相談機関が、サロンに参加してもらうことも大切である。

④高齢者食事グループ はな (8/22(木) 委員参加 2名 配付枚数 37枚)



【食事グループ内容】一人暮らし等の高齢者の方に、大勢でにぎやかに食事を楽しんでいただくこと、月に2回会食会を開催

(会食会参加者の声) さりげなく見守られていることを知った。自然なかたちで見守られたい。

(委員の声) すでにグループ同士の見守りはできているが、ここから地域に目を向けられるように継続的に参加者に声をかけていきたい。

⑤よんこれん主催水遊びイベント (9/1(日) 委員参加 2名 配付枚数 10枚)

【イベント内容】四谷地区乳幼児支援機関関係者連絡会(通称よんこれん)主催で地域の子育てを応援するイベント
(参加部会委員の声) 乳幼児連れの保護者と顔見知りになる機会のため、今後も継続して参加していきたい。

⑥四谷地区協議会主催 シニア健康体操

(10/8～30間 5ヶ所 委員参加 1名 配付枚数 145枚)

【健康ストレッチの内容】地区協議会主催(第2分科会)で年度延べ約8,000人が参加する地域交流を兼ねた高齢者向け健康増進講座

(健康ストレッチ参加者の声) リーフレット記載の連絡先に相談できることがわかった。

(委員の声) 住民の口コミは強く、ゆるやかな見守りや声かけなど、参加者の輪からあいさつ、声かけの重要性を地域に上げられるように周知したい。

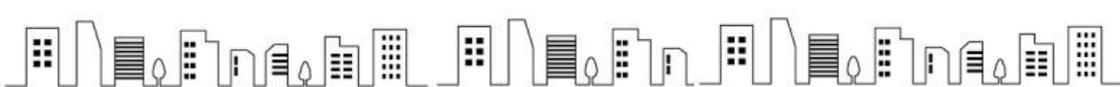


⑦四谷地区青少年育成委員会主催 あいさつフェスタ 2019 (11/3(日) 配付枚数 50枚)



【イベント内容】四谷地域のあいさつ運動と見守り活動の推進をするため、あいさつをしながらゲームなどで地域交流会をするイベント

(イベント参加者の声) あいさつや声かけは気持ちがいい。普段からのあいさつが大事。地域で顔見知りが増えることは、子のいる親として地域の安心につながる。



四谷地域の住民の方と（社福）新宿区社会福祉協議会が、地域のさ
さえあいについて一緒に考えました。

その中で、地域の住民同士がつながるきっかけづくりのためには、
まずはみんなで「**何となく見守ること**」と「**声をかけて、あいさつを
すること**」が大切と考えました。

誰もが出会う場面で、誰もが声をかけられるヒントを書きました。
住みやすいまちづくりを、できることから一緒にしませんか？



【地域には 民生委員・児童委員 がいます！】

民生委員・児童委員は福祉に関わる身近な相談相手となり、また福祉関係機
関とのつなぎやくなどの活動を行なっています。

生活上のさまざまな相談をうけます。 地域をいつも見守っています。
福祉関係機関などにつなぎます。 地域福祉の推進に協力します。
子どもの健全育成や安全を見守る取り組みを行なっています。

発行：2019年6月

作成：社会福祉法人新宿区社会福祉協議会 四谷地区社協部会

編集・印刷：社会福祉法人新宿区社会福祉協議会 東分室

〒160-0008 新宿区四谷三栄町10-16

電話：03-3359-0051 FAX：03-3359-0012



あいさつから 元気なまちへ！

見守りと声かけのヒント



◆おや?!と思ったときの連絡先◆

（社福）新宿区社会福祉協議会 東分室

電話：03-3359-0051

ホームページ
のQRコード



四谷高齢者総合相談センター

電話：03-5367-6770



地域子育て支援センター二葉

電話：03-5363-2170



重たい荷物を
持っている…

段差で車いすが
移動できない…

声かけ編

見守り編

子どもたちの登下校



点字ブロックを自転車
がふさいでいる…



電動カートで移動中



何か探しているようだ



目が不自由みたい
だな。危ないものは
ないかな。



子どもが泣き止まない
で親が困っている…

ゴミ出しが大変そう…



何か困って
いるのかな…



日常生活ではこのような場面があり
ます。周囲に気を留めて、何となく
の見守りをして、時には声をかけて
みませんか。



ヘルプマークを
携帯している



やってみよう!

声をかけてみよう! あいさつをしよう!



- ・お手伝いしましょうか?
- ・一緒に荷物を持ちましょうか?

・こんばんは。
何かお困りですか?

・大丈夫ですか?

- ・お子さんは
何ヶ月ですか?
- ・子どもにも声をかける!

・お手伝いさせて
もらっていいですか?

盲導犬と外出中



よく見かけるあの方、な
んだか痩せたようだ



いつもと身なりが
乱れているな

やってみよう!

ゆるやかな見守りをしよう!

おや…と思ったら、

ポイント

関係機関につなげよう!

- ①顔を合わせて、確認してみる。
- ②声をかけ続け、顔を覚えてもらう!
- ③何の手伝いが必要か確認して、できることは自身で
やってもらい、必要な所のお手伝いをする!

ポイント

買い物や散歩中など、日常生活の場面で、何となく目配り
をしてみると色々な状況・場面が見えてきます。

買い物や散歩中、庭木の水やりなどしながら登下校の子ど
もを見守るなど、何かをしながら見守りをしてみよう!

社協部会全体会報告【東圏域・筆筒町】

◆「多世代にわたる地域での支えあいを進めるための課題及びしくみへの提案」について

1 検討の方向性

既存の交流を踏まえ、多世代交流を促すため、多世代交流の場やしきみについて検討する。

2 検討の経過

回	開催日	検討内容
1	5月 21日 (火)	昨年度、社協部会として横寺町の交通安全運動に参加をした。今年度も近隣町会の活動に参加していくことを確認した。 誰でも自由に多世代の方々が交流できる場について、課題出し及び部会員の取り組みを共有した。
2	8月 20日 (火)	多世代交流を実施している場の見学及び部会員の活動の報告をし、多世代交流における地域の課題について意見交換を行った。
3	11月 19日 (火)	各部会委員の取り組みについて共有し、多世代の交流、情報共有の方法について意見交換を行った。

3 課題及びしくみへの提案

【課題】

- ・地形は坂道が多く、高齢者が移動しにくい。また、46町会と細分化しており、広範囲である為、地域全体で一つのイベントを実施することが困難である。
- ・社宅、新築マンションが多く、若い子育て世代が多数居住しているが、学区内の公立学校には進学しないケースも多く、地域とのつながりが薄い。そのため町会組織も高齢化が進んで、成り立たなくなっている。
- ・イベントを実施すると人が集まり交流はあるが、関係性が継続しない。また、企画を立案し、実施する担い手がない。

【強み】

- ・寺、施設空きスペース（あかね苑、さこむら医院、細工町高齢者在宅サービスセンター）地域交流スペース（施設神楽坂）など地域住民が交流する場として使用可能と思われる場所はある。

【しくみへの提案及び提案へ向けた動き】

<提案>

- ・イベントを継続的に実施することで、参加者同士が交流を図り、関係性を築いていく。
- ・理想的な居場所として、誰でも自由に立ち寄れ、ただ集まることができるカフェのような交流の場を実施することを提案する。

<部会員や部会員が所属する団体、地域での取り組み>

- ・細工町高齢者在宅サービスセンターが地域向けイベント「日常備蓄で災害時の栄養を考えよう」を7月に実施し、部会員も地域住民と共に参加した。部会員の声掛けにより、高齢者を中心とした地域住民が参加していた。また11月には地域向けイベント「簡単料理教室キーマカレー&ナン」を実施し、定期的ではないが継続して地域の交流の場を実施することができた。

- ・「みんな de ごはん」の見学をした。「みんな de ごはん」は地域の子育て支援者と親子が始めた食事会で、月1回実施している。親子だけではなく、地域の高齢者も参加し、皆で一緒に調理をしたり、食事を楽しむ姿があった。
- ・部会長と事務局である社協職員が中町児童館・地域交流館の館長へヒアリングをするとともに館での多世代交流について意見交換を行った。その中で高齢者と接したいという児童館利用の親子から希望があり、地域交流館では誰でも利用できる「まちなか避暑地」に児童館利用者の参加を促し、高齢者と子どもたちとの交流を図ることができたという事例の紹介があった。
- ・横寺町町会では新たな担い手募集の取り組みとして、町会の回覧板を利用した活動者の募集及び興味のある分野への活動参加を可能とする内容で周知を行った。その後、集まった一人ひとりの適性に合わせてイベント参加への声かけをしている。普段の声かけの中で、最初はイベントの内容を知ってもらうために、参加しながらの手伝いとして協力者を集めている。協力者の中には声をかけたことを喜んでくれた人もいた。
- ・南榎町町会で実施したスイカ割りでは、若い人の参加者が多く、子どもも含めて100人くらい参加した。大勢の参加者が集まる中で避難訓練を同時に実施した。
- ・市谷長延寺町町会の防災訓練では、血圧測定、梯子車、消防車、スタンプラリーなどを実施した。牛込三中で避難所運営訓練を行い、町会だけでなく、生徒、PTA有志も参加した。
- ・中里町では数年前に防災訓練をお祭り形式に変えたところ、子ども連れが来るようになった。起震車などの防災の体験を増やし、子どもが楽しめる内容にしたところ、多世代交流ができるようになった。その後、桜まつりにも若い世代が参加するようになった。
- ・筆筒町高齢者総合相談センター主催の見守り支え合い連絡会に、セブンイレブンや郵便局などが見守り事業登録者として参加した。ファミリーマートは今年度からの参加で、今後、地域活動をするための場所の提供について提案があった。企業や地域の商店等の力も活用可能である。

4 今後の展望

【多世代の交流】

- ・町会・自治会等で多世代交流が図れるイベントを実施する。
- ・施設や地域活動者が実施する既存のイベントを継続して実施する。
- ・イベントの開催情報を人や施設・団体のつながりから共有・発信し、賛同者や協力者を増やしていく。

【情報の発信】

- ・主催者側がチラシ等の情報を一軒一軒にポスティングすることで、イベントの周知をはかる。
- ・社協部会委員がつながり、イベントに合わせて対象者に声かけをする。
- ・声かけし合える仲間を増やしていく。
- ・町連の定例会を活用し、部会で話し合われたことを報告する。
- ・町会新聞、掲示板、児童館や地域交流館等での掲示、社協地区情報紙などで情報発信をする。

11月 矢来町東町会 健康講座

配布用
令和 1年11月 1日
矢来町東町会の皆さま
矢来町東町会会長
健康講座開催のご案内

台風15号、19号において全国に被害が出ております。会員の皆さまにおかれましては如何お過ごしでしょうか。皆さまご関係者に被害を受けられた方がいらっしゃいましたら心よりお見舞い申し上げます。また、11月に入りましたのに暖かい日が続いております。温暖化によるものであれば、この異常気象が今後大雨等招かば宜しいのですが、
早速ではございますが、総会時にも皆様から有事に備えて会員同士が顔見知りであり、お互いに声掛け合える関係づくり事業をすべきとの声を頂きました。特にお互いの得意分野を生かした事業は出来ないかとのご意見を頂きました。今般会員であり、お医者様でもございます河野宏様にご講師を賜り健康講座を開催させて頂くこととなりました。つきましては、一人でも多くの方にご参加を頂きたくお願いを申し上げます。お話を聞き致しました後、軽く昼食を頂きながら会員様相互のご懇親を頂きたく存じます。皆さまのご参加をお待ち申し上げます。

日時 11月16日10時より12時半ぐらい
場所 高齢者福祉施設神楽坂2階会議室
内容 「血圧について」
講師 医師 河野 宏 様

その後昼食を頂きながら会員相互のご懇親を頂きます

※昼食の準備上11月12日火曜日までに電話、またはFAXにてお申込下さい。

お申し込み先 電話
FAX
お申込者氏名()人数()

★チラシを一軒一軒にポスティングすることで、多くの方にイベントを周知することができました。



細工町高齢者在宅サービスセンター主催 「簡単料理教室 キーマカレー&ナン」

簡単料理教室
キーマカレー&ナン

寒い季節到来！食べて、身体の中から温かく過ごしたいものです。今回は、キーマカレーとナンをご用意しております。また、ナンは発酵時間なしで焼き上げます。みんなで楽しく作り、インド気分を味わいましょう。

日時：令和元年 11月27日(水)
13:30～15:00
場所：細工町高齢者在宅サービスセンター 3階食堂
(新宿区細工町1-3)
参加費：無料 (お食事代)
講師：新宿区社会福祉事業団
管理栄養士 松尾

事前の申し込みは不要です。当日、直接お越しください。

問い合わせ先：
細工町高齢者在宅サービスセンター
Tel 03-3269-1331 Fax 03-3269-2434
【地図】

★7月の参加者が友人を誘って参加してくれました。交流の輪が広がりました。



◆「多世代にわたる地域での支えあいを進めるための課題及びしくみへの提案」について

1 検討の方向性

地域のつながりの希薄化という課題に対して、(1)「互いが意識すること」が重要であり、そのためには(2)多世代が交流する場が必要である。引き続き「えのき声かけ隊」と連携して声かけによる関係づくりを行うとともに、部会委員が多世代交流イベントを企画・開催することにより、多世代交流の課題について把握し、多世代のつながりを深めるための工夫を蓄積することをめざす。

※「えのき声かけ隊」とは・・・「えのき声かけ隊」は、目に見える声かけ運動を実践するため、昨年度「榎町地区社協部会」から発足した。つながりの基本となる「あいさつ」をし合える関係を築くことを目的に、今年度から榎町地区町会連合会が活動を引き継ぎ、地域団体として本格的な取り組みが始まった。

2 検討の経過

回	開催日	検討内容
1	5月 27日(月)	地域のつながりの希薄化を課題ととらえ、互いが意識する地域にするために、「えのき声かけ隊」と連携し、多世代による交流の場にとりくむことを共有した。
2	8月 5日(月)	部会委員が多世代交流イベントを企画・開催するプロセスで、多世代交流の課題を発見・整理し、「多世代の場」が地域の中のつながりづくりに発展するしくみを検討することとした。
3	9月 2日(月) (第1回作業部会)	多世代交流イベントの内容の検討および会場の調整を行った。
4	9月 24日(火) (第2回作業部会)	役割分担と準備作業のスケジュールリング、イベント内容の調整等を行った。
5	11月 25日(月)	多世代交流イベントについて部会委員が分担した調整結果について共有し、当日の内容とタイムテーブル、周知について決定した。
6	1月 25日(土)	多世代交流イベントを開催する。終了後、イベントの企画・開催のプロセスで部会委員が把握した課題や工夫について共有する。

3 課題及びしくみへの提案

【課題】

- ・多世代の人々が地域の中で生活していても、互いに意識することが少なく、必ずしも相互の理解や交流があるわけではない。
- ・多世代が交流する場が少ない。
- ・多世代が参加するイベントは実施しているが一過性のものであり、多世代交流につながらない場合もある。

【しくみへの提案及び提案へ向けた動き】

<提案>

- ① いつでも参加できる場を目指し、具体的な取り組みとして多世代交流イベントを実施する。

②地域の人々は互いに影響を与え合い連動しているため、各世代を個別に取り上げるのではなく、全体で一つと考え包摂的な取り組みを行う。多世代にわたる地域の支えあいをまち全体で推進する「えのき声かけ隊」と連動し、つながりを深めるしくみを継続させる。

<提案へ向けた動き>

- ① 部会委員が今後の取り組みの展開の一つとして試験的に交流の場を企画・実施し、検証していく。
 - ・食事を一緒にする、歌を歌うなど、老いも若きも一緒に参加できる内容を検討した。
 - ・多世代交流や、地域の関係づくりに賛同した高齢者団体・障害者施設・小中高校、多文化共生プラザ、ボランティアグループ等と交流イベントを実施することとした。
 - ・各団体との調整を部会委員で分担し、準備を進めた。
- ② 部会委員が「えのき声かけ隊」の役員となり、声かけのポイントについて学び、友愛カードやワンポイント講座の検討をした。

<具体的な取り組み>

① 榎町地区多世代交流イベント

運営者：榎町地区社協部会委員

内容：榎町地区多世代交流イベント・お正月交歓会「歌とゲームを楽しもう」

周知：高齢者クラブ・学校・障害者施設、食事サロン参加者、外国籍住民などに声かけし、合唱や演奏、ダンス披露などの催しを通して交流する。

日時：令和2年1月25日(土)13:30~15:30

会場：榎町地域センター 大会議室 A.B、美術工芸室、調理室

経費：部会委員の寄付で集まったお金を原資とし、材料費に使用する。

② 「えのき声かけ隊」への参加(4回)

7月10日「えのき声かけ隊・世話人会 ワークショップ」

さわやか福祉財団の講話・支えあいゲームの実施。えのき声かけ隊役員選出。

8月23日「ワンポイント講座① しんじゅく100トレ・おいしいカレーの作り方(試食)」

9月5日「えのき声かけ隊・役員会」ワンポイント講座②について検討

10月28日「ワンポイント講座② 悪質商法の手口と対処法&おもてなしの彩」

悪質商法・特殊詐欺や見守りのポイント・お正月に役立つポチ袋と箸袋を作成

<見込む効果>

- (1) 多世代がイベントや「えのき声かけ隊」などで同じ場所で過ごすことにより参加者同士の交流を図り、地域でこれまで意識していなかった方々を意識することによって、互いに関心を持ち、声をかけあい支えあう地域づくりにつながる。
- (2) 部会委員がイベントを実施したことにより得た多世代のつながりを深めるための企画・準備・運営等の工夫を、地域や「えのき声かけ隊」に共有し、実践できる。

～お正月交歓会～

えのきちょう 多世代交流イベント

みんなで
楽しもう!

多世代/文化の違いや理解を
音楽や遊びを通して交流をしましょう!
その後は美味しいお汁粉もあります。
お餅のように伸び伸び楽しみましょう!

【日程】令和2年1月25日(土)

【時間】13:30～15:30

【会場】榎町地域センター3階 大会議室A・B

【主催】榎町地区社協部会

裏面は本日の
プログラムだよ☆

プログラム



1 開会セレモニー

～全員合唱～

曲目：「上を向いて歩こう」

※お手元の歌詞カードを参照に

2 ピアノとヴァイオリン演奏

曲目：情熱大陸 / G線上のアリア
ピアノ奏者：冨塚 節子さん
ヴァイオリン奏者：鈴木 庸子さん

3 小学生のダンス

榎町子ども家庭支援センターより
ダンスの披露
曲目：「パプリカ」・「衝動」

4 空手の型

シャロームみなみかぜより
空手の型の披露

5 ジャグリング・ダンス

山吹高校より
ジャグリング・ダンスの披露

6 お正月の歌と遊び

ミャンマーの
マリップ・センスさんと中高生に
よるお正月遊びと歌の披露

7 みんなで楽しもう！

全員で歌とゲームを一緒に楽しみましょう！
合唱曲：「1月1日」 / 「青い山脈」
「高校3年生」
※お手元の歌詞カードを参照に

8 「こんな地域にしたい！」

中学生より
「こんな地域にしたい！」
思いを伝えます。
そんな思いの意見交換を
多世代でしましょう！！

9 閉会の挨拶

！ ☆おまけのお楽しみ「お汁粉」☆



社協部会全体会報告【中央圏域・若松町地区】

◆「多世代にわたる地域での支えあいを進めるための課題及びしくみへの提案」について

1 検討の方向性

前期部会で提案、検証を実施してきた「高齢者のたまり場」を「多世代のたまり場」として検討する際に起こり得る問題点や課題を協議し、解決策を検討、提案する。

たまり場とは・・・人と情報が集まり、必要に応じて関係機関にもつなく窓口機能（キーパーソン）を備える居場所を示す。

2 検討の経過

回	開催日	検討内容
1	5月23日（木）	H29、30年度の「たまり場」の考察をもとに、「多世代」を対象とするならば、どのように協議していくかを検討した。 参加した地域住民が支えあいを目にし、そのような場を体験することで助け合いの輪が広がっていくという仮説を立てた。
	8月6日（火）	部会委員自身もこれまであまり接点のなかった交流の場を体験することで、「多世代」に向けた「たまり場」の問題点や課題が見えてくるのではないかという意見により、新宿区立障害者福祉センターの見学とセンター職員、利用者との意見交換会を行った。
2	8月22日（木）	協議の中で出たキーワードを仮説に基づき検証し、多世代のたまり場への仕組みづくりとして、若松町社協部会でできることを検討した。
3	10月2日（水） 11月6日（水）	あけぼのカフェ（地域サロン）で牛込仲之小学校6年生がボランティア活動を行うことになり、参加者との交流の様子を部会委員が見学した。
4	11月7日（木）	全体会の報告資料（案）を基に、協議内容、意見、提案等の確認を行い、修正内容を協議した。

3 課題及びしくみへの提案

【課題】

- ・子どもは、高齢者と共に生活することで老いを自然に理解してきたが、核家族化により、三世代で生活することが少なくなり、支えあって生活していくという意識が希薄になっている。
- ・共働きという生活様式の変化により、担い手になり得る若い世代は、他者を気に掛ける余裕がない。
- ・地域では、高齢者、障害者、子どもなど各々の分野ごとの交流にとどまり、分野を越えた横のつながりや情報の共有といった広がりが少ない。
⇒たまり場は必要であると考えてきたが、時代の変化（核家族化／共働き／横のつながりが希薄）に加え、物理的な場所の確保も難しく、どの世代にとっても「たまり場」（交流の場を含む）が作り難くなっている。

【仮説】

子どもをきっかけに働きかけをすることで、子ども自身やその子どもの親が地域の「助け合い・支えあいの仕組み」について知ることができる。知ることにより、地域の中にある高齢者、障害者、子どもといった分野での隔たりが解消され、地域に残っている助け合い、支えあいの再建につながっていくのではないかと考えている。

【提案へ向けた部会委員のこれまでの取組み・これから取組みたいこと】

＜様々な社会資源を知り、異なる分野の理解を深める＞

○これまでの取組み：新宿区立障害者福祉センターの見学・意見交換

多世代（高齢者、障害者、子ども）のたまり場を考えるうえで、部会委員自身が色々な場所を知ることが大切であるという意見があり、普段、部会委員がなじみのない障害者施設の見学と意見交換を行った。

・場所：新宿区立障害者福祉センター

・日時：令和元年8月6日（火）13：00～15：00

・内容：新宿区立障害者福祉センター、新宿福祉作業所、リハビリ室も含め、施設の見学と施設利用者・職員との意見交換を行った。「近くにあり、施設の存在は知っていたが、これまでは、中に入る機会がなかった。見学会を通して、知ることができて良かった。異なる分野の活動者が互いに自ら知ること、知らせることによって繋がることできる」などの感想が部会委員から挙げられた。



○今後の取組み「おたすけマーク」の普及と実用の支援

上記、意見交換会で、戸塚地区協議会で発案された「おたすけマーク」の紹介があった。このマークは、平成28・29年度の戸塚地区社協部会で、バリアフリーの見える化として、しくみづくりへの提言の1つとして、報告されたものである。同年度の若松町地区部会でも同様の提言（担い手マーク）をしたことから、若松町地区の部会委員自身が、活動時にこのマークを付け、地域住民がマークを目にする機会を増やし、マークの理解が広がるように推進していく。※「おたすけマーク」とは…援助や配慮を必要としている方が、助けてくれる人を見つけやすくするために作られた印（バッジ）。困っている人を助けてほしい人や助けてもらいたい人は誰でも付けることができる。

＜既存のサロンでの多世代交流＞

○これまでの取組み：児童とあけぼのカフェ参加者との多世代交流の見学

牛込仲之小学校、地域協働学校運営協議会とあけぼのカフェとの関わりの中で、授業の一環として、児童たちにあけぼのカフェを手伝わせたいという相談があった。児童の受け入れを行う日程で部会委員があけぼのカフェに参加し、その様子を見学した。

・場所：あけぼのカフェ

・日時：令和元年10月2日（水）・11月6日（水）
各日10：00～11：45頃まで

・内容：児童たちが、あけぼのカフェの運営（入室時の声掛けやコーヒーの提供・お代わりなど）を手伝いながら、参加者に対し、手品、クイズなどのレクリエーションを提供し、交流を図った。



○今後の取組み 各分野の活動の接着剤となる働き掛け

子どもたちや若い親世代に‘人の役に立ちたい’という気持ちが育まれるように、学校や保護者、スクールコーディネーター、地域協働学校など、多くの地域住民とも連携し、子どもを巻き込んでたまり場を実践していく。そうすることで、たまり場が「地域の接着剤」となり、高齢者、障害者、子どもなど、各分野に横のつながりができ、「地域を知る」ことのできる多世代のたまり場となっていく。

4 まとめ

地域住民として、この部会をとおした活動だけでは、支えあいのしくみを作り上げるのは難しく、バランスの取れた自助・互助（近助＝互近助）・公助が必要である。

地域住民一人一人が意識（＝自助）を持ち、地域にあるサロン等のたまり場に参加し、つながりを持つ中で、地域を知り、支えあいの輪（＝互助）に加わることが必要で、行政には、その支えあいの輪を支援していく力（＝公助）が求められる。

社協部会全体会報告【中央圏域・大久保地区】

◆「多世代にわたる地域での支えあいを進めるための課題及びしくみへの提案」について

1 検討の方向性

大久保地区ですでに実施している地域での支えあいを進める活動を、地域に広めるための方法について検討していく。

2 検討の経過

回	開催日	検討内容
1	5月22日(水)	多世代にわたる地域での支えあいを進めるための既存の取組み及び地域課題について確認を行った。
2	8月7日(水)	委員から区内・都内の居場所活動の情報提供があり、大久保地区でできる支えあいのしくみについて話し合いを行った。
3	11月13日(水)	大久保地区での支えあいを進めるための課題・しくみへの提案について各委員の意見を共有し、整理した。

<地域課題> 地域の支えあいを意識する人が少なくなっている

- ・ワンルームマンションが多く、家族で住んでいる世帯が少ないこともあり、声かけしづらい。
- ・オートロックのマンションが増え、民生委員等が訪問しても会えない住民が多くなっている。
- ・地域に長く住む住民が少なくなっている。転出入者が多く、住民が定着しない。隣近所で挨拶がなく、誰が住んでいるかわからない。住民の地域への帰属意識が低い。
- ・住民同士の関わりが少ない地域では、災害などが起きた場合に助けあうことができない。

<すでに実施している地域での支えあいを進める活動について>

(1) 町会・自治会の行事

- ・町会・自治会単位で実施している祭りには、地域の親子や住民の参加があり、住民同士が顔見知りになるきっかけになっている。
- ・祭りを防災の一環として実施している町会・自治会もある。若い世代は防災訓練や新しい知識を得る場には参加しやすいようである。
- ・町会・自治会活動の防災訓練がきっかけで、地域活動の新たな担い手の発掘につながった。
- ・百人町三丁目町会では、住民同士の絆が強い。コミュニティスポーツ大会では、同じ目標に向かって、互いに応援しあい、交流を深めていた。

(2) 見守りする関係・環境づくり

- ・大久保地区の小学校では、PTAや住民が、中学校では生徒会が挨拶運動を実施し、地域住民が子どもたちの見守りを行っている。

(3) 学生と地域住民との交流

- ・大久保地区に大学のキャンパスができ、学生ボランティアが地域の活動に積極的に参加し、学生と地域との交流が増えている。町会・自治会や施設のお祭り、区主催の「新宿防災フェスタ」などの手伝いに学生ボランティアが参加し、交流が深まってきている。

(4) 一人暮らしの高齢者への声かけや見守り

- ・都営住宅(集合住宅)では、これまでサロンに参加していた方が、認知症になり一人で行かれなくなっても、同じサロンの参加者が今までのつながりで誘っており、住民同士の声かけの関係ができています。

(5) 薬局や商店が地域の相談場所・居場所になっている

- ・薬局や商店には、日本人だけでなく、外国人の方等からも健康や生活の相談など多様な相談が集まっている。
- ・民生委員と高齢者総合相談センターが中心となり開催している大久保地域高齢者交流会(芋煮会)には、高齢者56名、活動者も多く参加した。活動者からは、準備に半年の時間がかかり、負担もあるが、自分ができる役割を果たせたと喜ばれた。近隣の薬局、商店が参加し、相談ブースの設置や食材の確保といった面で協力を行うとともに、地域住民との交流を行っている。

【しくみへの提案及び提案へ向けた動き】

すでに実施している地域での支えあいを進めるための活動・小規模な行事を地域に広げていく。

<提案>

(1) 声かけ・挨拶ができる地域にする

- ・住民同士の関わりをつくっていく。災害時には、世代を超えた支えあいができるようになる。

(2) 人が集まる場・担い手を増やす

- ・子育て世代や定年退職後の方々などの多様な世代、これまで地域活動を行っていない層（在勤者、大学生、留学生等）を巻き込むために、人が集まる行事に新たな地域住民が参加できるようなしかけ・工夫を行う。
- ・就労している世代の働き方・意識に合ったきっかけづくりを行い、行事への参加を促す。

(3) 相談できる場所・小規模の居場所を増やす

- ・大久保地域高齢者交流会の連携をモデルにし、地域の薬局や商店が民生委員、町会・自治会、相談機関との関係づくりを進める。
- ・薬局や商店などが、地域住民から相談されたときに、どこで何を相談できるのか適切なアドバイスをするために、各相談場所を知り住民につないでいく。

<提案に向けた具体的な取り組み>

(1) 声かけ・挨拶ができる地域にするためには

- ・子どもが参加する行事は、その家族も参加する。多くの人に参加する町会・自治会の祭り等に学生ボランティアなどの参加を促し、住民同士が顔見知りになるきっかけをつくる。
- ・防災訓練での「無事ですシート」（※災害の際に、マグネットで扉にとりつけることで自身の安否を知らせるシート。西戸山タワーハウムズ自治会で活用している）のような、負担なく参加でき・参加促進につながるツールの活用を広げることで、多くの住民が声かけしやすくなるよう工夫する。

(2) 人が集まる場・担い手を増やすためには

- ・町会・自治会や施設・団体の祭り等にボランティアを依頼する際、活動内容の役割を細分化することで、新たな担い手も参加しやすくする。また、引き続き活動してくれそうな人に個別に声をかけて手伝ってほしいことを伝え、地道に担い手を増やしていく。
- ・新たな担い手には、それ以降の行事についても周知し、つながり続けるよう、既存の担い手が気にかけておく。また、行事の打合せや打ち上げにも参加を促し、つながりを切らない。町会・自治会の活動に限らず、施設・団体でも活動者との縁を切らない工夫をする。
- ・仲間同士や子連れで参加できる行事の情報について、PTAを中心に周知する等、子育て世代の横のつながりを利用する。
- ・定年退職後の地域デビューにつながるよう、彼（彼女）らの興味や特技を知り、声をかけるきっかけとする。参加者が知識を得たり、楽しめるような地域の集まり（例：スポーツ大会）があれば、個別に声をかけて参加を促し、活動につなげていく。
- ・地域の行事の情報を社協も知り、社協のつながりの中から協力者を探していく。社協が開催する講座等で担い手を新たに見つけ、地域の活動につなぐ。特に、SNSやチラシ作成などの特技を活かせる活動の紹介を行っていく。活動が動き出すまでは社協が支援する。
- ・就労している人などが時間のできた時に気軽に活動できるよう、社協が地域活動の紹介やボランティアメニューの整備のしくみをつくる。

(3) 相談できる場所・小規模の居場所を増やすために

- ・大久保ボランティアコーナーに掲示してあるマップ（昨年度の部会で作成したもの）を社協のホームページに掲載することで、住民に大久保地区の相談機関や居場所を周知する。
- ・大久保地域高齢者交流会でできた薬局・商店と民生委員、高齢者総合相談センターとのつながりを活用し、住民からの相談内容によっては、連携して解決を図っていく。
- ・大久保地域高齢者交流会のようなまずは参加してもらい、外出するきっかけになる行事を続ける。年1回でも継続的な関わりがあることで、変化に気づき、声をかけたり、関係機関につなぐきっかけとなる。
- ・地域住民から薬局や商店に相談があったときに、「その相談はあそこに相談してみたら？」と伝える、センサーになるような社員や従業員を増やす。高齢者からの相談に関しては高相センターへ、ボランティアについては社協へ、など相談先を明確にしておくことで、センサーになるような人も気軽に相談にのれるよう工夫する。
- ・「健康サポート薬局」は、処方された処方箋から利用客の変化に気づき声をかけたり、商店では迷っていたり、同じ物を買う人に対して、一声かけたり、見守りを行う機能をもつ。部会委員や現状民生委員等とつながりのある「健康サポート薬局」から取組み、その姿勢を社内、他支店などにも共有し、広めていく。

<提案を实践したことにより期待できる効果>

- (1) 声かけ・挨拶する関係になれば、災害時にも住民同士で支えあうことができる。認知症などになっても地域の中で暮らし続けることができる。
- (2) 参加しやすい行事が増えて住民の参加が増えることで、参加者である住民同士が地域の中で顔見知り、お互い声をかけあう関係になり、安心して暮らせる地域になる。新たな担い手が増えて、活動の幅が広がり、出会いの場である行事の維持や内容の充実が見込める。
- (3) 薬局や商店などの人が集まる場所は、住民と関係機関や地域とのつなぎ役になれる。



学生ボランティアが参加した
大久保地域高齢者交流会



毎年多くの子どもたち、
ボランティアが参加する夏祭り

社協部会全体会報告【中央圏域・戸塚地区】

◆「多世代にわたる地域での支えあいを進めるための課題及びしくみへの提案」について

1 検討の方向性

多世代交流は、さまざまな地域活動の後継者育成につながるという視点を踏まえ、地域で実践されているイベントなどを参考に支えあいのしくみについて検討する。

2 検討の経過

回	開催日	検討内容
1	5月10日(金)	すでに多世代を対象としたイベント等取組みがなされている。地域活動の後継者育成につながる視点からも多世代交流の重要性について確認した。
2	8月23日(金)	実践的な取り組みの紹介、課題についての共有を行った。地域社会のつながりの大切さ、各種取り組み継続の重要性を確認した。
3	12月2日(月)	全体会に向けて、戸塚地区社協部会から支えあいの仕組みについて意見交換を行い提言としてまとめた。

3 課題及びしくみへの提案

【課題】

- (1) 活動グループのキーパーソンが高齢等の理由により活動を辞めた場合に、活動グループそのものの継続が厳しくなる。後継者不足の問題がある。
- (2) 活動する場所などに利用時間などの制約がある場合、準備や片付けの時間に追われ、ゆっくり過ごす時間が取れないなど、実際の活動では、不都合な点がある。
- (3) 世代によっては、職業生活・子育てに忙しく、地域生活に目を向ける余裕がない。現役世代は、地域活動への関わりに消極的である。

【しくみへの提案及び提案へ向けた動き】

<具体的な取組み>

- ・ グランパの会（男性サロン）の参加者有志がボランティア活動として、地区協議会からの声掛けで昔遊びの会、高齢者施設でのお餅つきなど地域行事へ参加している。
- ・ 諏訪町会では、留学生との七夕交流会や昔遊びの会を毎年継続して実施している。
- ・ （福）サンの施設では近隣保育園との交流会・納涼祭行事の開催など、行事を通して施設利用の高齢者と子どもの多世代交流を行っている。行事後も参加した子どもや保護者が気軽に立ち寄れる雰囲気作りに努めている。
- ・ （福）邦友会 新宿けやき園の施設が子どもや近隣住民の駆け込み避難先として、怪我をした時などに助けを求めに来るような場所となっている。
- ・ 部会を通して一個人だけでは届かない情報が、何気なく広まりいろいろな活動者や施設・団体とつながった。このつながりから、（福）サンでの子ども食堂の実施へ向けて人や情報が集まってきている。



▲グランパの会

<取り組みによる効果>

- ・ 居場所活動を通して、つながりが生まれ、参加者が地域に目を向けるきっかけづくりができている。
- ・ 留学生や認知症高齢者も含めた交流会を実施することによって、参加した人の多様性の理解につながっている。
- ・ 施設利用者を地域住民の方が「一住民」として自然と見守り、支えあう関係が醸成されてきている。

<具体的な取り組みからの気づき>

- ・ 新たな活動者との関わりは、第一に理念の共有をできる関係作りを大切にすることで、グループ活動の足並みをそろえることができ、グループの担い手となっていく。
- ・ 活動場所は、あまり制約がないところが望ましい。自由度の高い場所で節度を持って使用していくことで、無理のない活動を行うことにより、活動継続しやすくなる。
- ・ 多世代交流の場では、イベントに限らず、見守りあう、声を掛けあう関係作りを意識して実施することが、地域でのつながりの第1歩となる。
- ・ 施設や事業所を地域住民が身近に感じられる関係作りを進める。住民だけでなく、そこで働いている人たちを含め地域共同体として捉えることで、地域一帯で支えあいのしくみにつながる。
- ・ 自然災害などの多発により、次世代の住民の中には、地域でのつながりの重要性を感じている人もいる。個人個人の地域活動への関わり方が変化してきており、現役世代の参加があるとき、見守りつつ、できることをできる範囲で活動してもらうことが、後継者づくりにつながる。

<戸塚地区社協部会からの提言>

一年間協議したことを踏まえ、部会員がそれぞれ所属する団体・活動先において、以下の提言を実施・周知していく。

- 1 地域の支えあいへの第一歩として、挨拶を交わすなど顔なじみの関係作りをしていく。
- 2 地域課題として発信されたことが、地域活動者に受け止められることで地域の支えあいにつながっていく。また、だれもが「助けて」と言えるように日頃からの関係づくりを行う。
- 3 活動の継続を意識した地域活動の場所の選定及び、活動しやすい環境の整備を行う。
- 4 地域活動の担い手は、在住の住民だけでなく、在勤・在学の人、施設利用者などを対象と捉え、今いる地域共同体を構築していく。
- 5 在勤・在学の活動者は、新宿での活動をきっかけに、地元に戻ったときにも発揮できる活動力をつけることができる。戸塚から始まった活動が、他の地域での活動につながることは、地域での支えあいの促進につながる。
- 6 地域活動を継続する中で、活動者は地域への関心が深まっていく。地域で役に立ちたいという支えあいの意識を育てていくことが、後継者育成につながるものである。

社協部会全体会報告【西圏域・落合第一地区】

◆「多世代にわたる地域での支えあいを進めるための課題及びしくみへの提案」について

1 検討の方向性

落合第一地区ですで行われている多世代による交流をより深めていけるようなしくみの検討を行っていく。

2 検討の経過

回	開催日	検討内容
1	5月17日(金)	現在取り組んでいる多世代交流活動と多世代交流が広がらない課題についての話し合いを行った。
2	8月21日(水)	部会員の活動の具体的な取り組みの共有及び課題解決に向けた活動の広がりについて話し合いを行った。
3	10月23日(水) (作業部会)	部会員同士が課題解決に向けて、お互いの活動や情報を共有し、多世代交流を深めるための具体的な方法とその後の展開について、意見交換をした。
4	11月20日(水)	社協部会全体会に向け、情報交換の場についての具体的な内容と方法について話し合い、各団体同士がお互いを知り、つながることを目的に継続することを共有した。

3 課題及びしくみへの提案

【課題】

- 1 高齢の男性が他者との交流をせず、引きこもる傾向にある。
- 2 高齢者や子どもは一方的に支援してもらっただけでなく、地域や地域住民に対して、何かできることがあるとよいが、その機会や情報がない。
- 3 高齢者や障がいのある方、外国人に対する知識や情報の不足により理解に繋がらない。
- 4 サロンなどの居場所の運営で中心となる後継者が見つかりにくい。

【しくみへの提案及び提案へ向けた動き】

<具体的に実施されている取り組み>

- 高齢者と園児が挨拶を交わすようなお互いが関われるしくみがあり、実践をしている。
実践事例：・ヘルスケアタウン下落合×キッズタウン下落合保育園（保育園に登園する園児に、同じ建物内のヘルスケアタウン下落合の利用者が玄関で挨拶をしている）
・新宿せいが子ども園×地域の大人たち（園児がおとめ山公園に行った際や散歩に出かけた際に近隣住民へ挨拶をしている）
- 日頃から高齢者と園児、園児と大学生など多世代の交流を図り、幼少期から様々な人と関わりを持つ機会を設けている。
実践事例：・ヘルスケアタウン下落合×落合第四小学校（小学生が楽器演奏を披露した後、小学生が高齢者へ自己紹介や質問をするなどの交流を行った）
・新宿せいが子ども園×デイサービスあおぞら（コマ、将棋、折り紙などの昔遊びを通して高齢者と園児が交流を行った）
・新宿せいが子ども園×早稲田大学学生サークル（スタンプラリーや納涼祭などの新宿せいが子ども園のイベントに大学生がボランティアとして参加した）
・新宿せいが子ども園×絵本読み聞かせ（地域の活動者が新宿せいが子ども園を訪問し、読み聞かせの活動を行っている）
・聖母ホーム×中落合第二保育園（高齢者と子どもが対になって手遊びをした）
・聖母ホーム×落合少年少女合唱団（高齢者に向けて合唱を披露した）
・有料老人ホームチャームプレミア目白お留山×新宿せいが子ども園（コマ回しや風船バレーをしながら、交流をした）
・あゆみの家×落合少年少女合唱団（障がい者施設にて合唱を披露した）

●住民同士でお互いに見守るしくみがある。

実践事例：・高田馬場住宅×七夕イベント（住民が短冊を書き、気がかりな事があれば住民宅に様子を伺いに行くといった活動ができた）

→個々に実施している取り組みについて、部会を通して部会員の関係づくりができたことで、施設間の繋がりができ、さらに活動が広がった。

<具体的な取り組みから検証した、課題に対しての提案>

1 「食」を通したふれあいを小学校や施設で行っていく。

地域で孤立している人へおせっかいとして、イベントへの参加や健康状態の確認などの声かけをする。声かけの際には、複数のイベントを紹介する等、選択肢を用意し、本人に選んでもらう。

2 高齢者や子どもが、サロン活動やボランティア活動、地域のイベント準備などに関われるように部会員が情報を提供する。

3 部会員を中心に地域の専門職の協力を得て、学習の機会や情報を地域住民に提供する。

部会員が関わり、地域住民が障がい者や高齢者、外国人などの多様な人の理解に繋がる機会を作るために、日頃から地域の中で知り合うことを支援する。

人と人、団体と団体をつなげる人や組織（落合勉強会など）がある。

4 部会員が今後も相互に情報交換の場を作る。

イベントなどを通して、各団体同士がお互いを知り、つながることができるので、情報交換の場を設ける。情報共有の場を通して、必要な人に必要な情報が届くしくみとする。

【情報交換の場について】

日時：令和2年2月17日（月） 新宿せいが子ども園にて、情報交換会立ち上げ準備会を実施。

目的：月1回、部会員と落合第一地区の地域に関心のある住民が、地域のイベントなどの情報共有を行い、部会員自身も地域の情報を得て自身の活動に役立てる。また、地域に関心を持っている住民をコアメンバーとして育成し、情報を広く地域住民へ届けることを目的とする。

参加者：部会員がコアメンバーとして参加し、主体的に取り組む。会への参加は部会員の紹介を必要とし、そこから部会員以外の地域に関心のある住民などを参加者として増やしていく。

会場：新宿せいが子ども園や地域の高齢者施設など、様々な場所で展開していく方向。

今後の展開：令和2年4月第1回情報交換会（名称未定）を実施予定。

<具体的な取り組みの効果>

1 引きこもりがちな人の外出する機会を作ることができる。

複数の外出先やイベントの選択肢があることで、自らの生活を決定していくことができる。

2 活動を通して、子どもは先生や保護者とは違う世代の人と交流することができ、将来、積極的に社会に出ていける子どもになることができる。また、高齢者も役割を持つことで外に出て地域活動に関わることができる。

3 地域住民が高齢者や障がい者、外国人などの理解を深めることで、偏見なく自然と交流できるようになる。

その人や組織の持つ可能性が広がる。

施設同士が繋がり、地域活動の広がりが見られるようになる。

4 部会員を始め、地域活動者が相互に情報交換をすることで、居場所や施設などの情報や課題を知ることができる。また、情報交換の場では、後継者不足などの課題解決へ向けた検討もできる。

【落合第一地区の強みを活用しての展開】

・専門職が集まれる場（勉強会やイベントなど）があり、連携が図れている。専門職同士が繋がることにより、新しいアイデアが生まれ、多世代交流の促進をすることができる。

・部会員同士が繋がり、施設間の交流が始まっている。今後は情報交換の場を通じて、相互に関わり合えるようなしくみを作っていく。

社協部会全体会報告【西圏域・落合第二地区】

◆「多世代にわたる地域での支えあいを進めるための課題及びしくみへの提案」について

1 検討の方向性

日常的に多世代交流ができるきっかけをつくるために、優つくり村の納涼祭へ参加し、しくみについて検討していく。

2 検討の経過

回	開催日	検討内容
1	5月28日(火)	多世代交流ができるしくみについて考え、課題出しを行った。
2	7月3日(水) (作業部会)	交流できる場所ときっかけがあれば、多世代交流ができると考え、優つくり村の納涼祭の企画から参加し、多世代交流ができるしくみを検討することとした。
3	8月9日(金) (イベント実施)	多世代交流ができる機会・場をつくることを目的として、優つくり村の納涼祭の手伝いを行った。
4	8月27日(火)	優つくり村の納涼祭で、多世代交流が効果的にできたか、振り返りを行い、多世代交流のしくみについて検討した。
5	11月12日(火)	社協部会全体会に向け、しくみの提案についての具体的な内容と方法について話し合いを行なった。

3 課題及びしくみへの提案

【課題】

- (1) 多世代交流イベントが開催されても単発で終わってしまう
- (2) 多世代交流イベントが開催されていても知らないので参加できない
- (3) 見ず知らずの人を支えることは難しい

【しくみへの提案及び提案へ向けた動き】

<提案>

- (1) 継続的な多世代交流ができるしくみづくり
 - ・場所ときっかけがあれば多世代交流ができる
 - ・安心安全な場所で多世代交流ができる機会・場を増やしていく
 - ・多世代交流=支えあい
- (2) 効果的な情報発信の方法
 - ・多世代交流ができるしくみを既存のイベントにも広げていく
 - ・地域のイベントに対してアンテナをはり、周知し地域に発信していく
- (3) 相手の事を知れば助けられる
 - ・顔見知り・顔の見える関係をつくるための場が必要
 - ・お互いを知ることが支えあいにつながる

<具体的な取り組み>

運 営 者：優つくり村、部会委員

内 容：優つくり村で実施する納涼祭を多世代交流ができるイベントとして支援する。

周 知：落合第二地区民生・児童委員、落合第三幼稚園、近隣サロン、区設掲示板、見守り協力員・利用者、落合第二ボランティアコーナー等

日時 会場：令和元年8月9日13時30分から15時30分 優つくり村新宿西落合

参 加 費：無料

チケット代：300円(焼きそば、フランクフルト、カキ氷、綿菓子、ドリンク、ヨーヨー、宝引き、輪投げ)

来場者数：95名(内、小学生以下26名)男性32名、女性63名

チケット販売数：83枚 ボランティア：15名

〈多世代交流のしかけ〉

- (1) 安心安全な場所でイベントを開催
優っくり村の会場を活用



- (2) 効果的な情報発信

部会委員のネットワークを活用し、情報発信をしたことで、多くの方が納涼祭に参加した。(民児協、町会自治会、近隣サロン、地域交流館、近隣幼稚園等へ周知)

- (3) 自然と多世代交流ができるきっかけづくり

- ・ 休憩スペースで手話体験 (協力: 目白大学手話サークルオレンジ)
- ・ 誰もがができる手芸 (マスコットキーホルダーの作成)
- ・ 学生ボランティアの参加 (いつでも体験ボランティア)



〈多世代交流の成果〉

- (1) 施設と地域住民の関係づくりができた。

納涼祭の運営側に部会委員が参加したことで、優っくり村と地域住民との連携が図れた。施設の利用者のみで開催していた納涼祭に地域住民も参加できる企画としたことで、気軽に施設へ訪れることができ、施設利用者と地域住民が交流できた。

- (2) 参加者同士のふれあいで、障害理解につながった

- ・ 工房「風」(心の病を持つ方々が地域の中で安心して生活ができるように支援している団体)が活動プログラムの一環で作品販売のために利用者が参加した。納涼祭では参加者としても楽しむことができ、他の参加者と自然に交流ができた。
- ・ 納涼祭で手話体験に参加していた親子が、落合第三幼稚園で実施した福祉教育の手話体験にも参加していた。保護者から、納涼祭で手話体験をしてから、子どもが手話に関心を持っていると話があった。

- (3) ボランティアの活動が広がった

- ・ 目白大学手話サークルオレンジの学生達からは、普段はサークルのメンバー同士で手話を勉強していたが、地域の方と手話を通して交流ができてよかったとの感想をいただいた。サークルとしてイベント等に参加することは初めてだったが、今後も地域のイベントに参加したいと希望があった。
- ・ いつでも体験ボランティアで参加した学生からは、納涼祭の中でブースのお手伝いをした際に、施設の利用者だけでなく、地域住民や民生委員の方と交流ができ、楽しく活動ができたとの感想があった。

4 今後の展望

- ・ 落合第二部会で提案した多世代交流のノウハウを活用し、引き続き、優っくり村で納涼祭を実施していく。
- ・ 情報のネットワークがあれば多世代交流は広がっていくため、今期部会でつながった部会委員のネットワーク活用し、今後も継続して広げていく。
- ・ 中高生は部活や習い事があり、平日に実施するイベントに参加しにくいいため、夏休み等の機会を利用していつでも体験ボランティアに参加してもらい多世代交流の機会をつくる。
- ・ 本部会の取り組みを報告する「落合第二地区社協部会だより」を作成し、今後、多世代交流イベントを企画検討している施設等へ多世代交流のしくみを広げていくためのツールとして活用する。

落合第二地区社協部会だより ～多世代交流のトリセツ～

永久保存版

【社協部会とは】

社協部会は新宿区社会福祉協議会の経営計画の事業実施を通じて、解決すべき地域課題について協議、提言するものです。2018年～2019年は「多世代にわたる地域での支えあいを進めるための課題及びしくみへの提案」について協議をしました。

落合第二地区社協部会が、地域のイベントに参加し、支援した取り組みを、多世代交流の仕組みのノウハウとして広げていくために「落合第二地区社協部会だより」を作成しました。

「令和元年度 落合第二地区社協部会の活動」

【提案】多世代交流のしかけ作り

- (1) 継続的な多世代交流ができるしくみづくり
 - ・場所ときっかけがあれば多世代交流ができる
 - ・安心安全な場所で多世代交流ができる機会・場を増やしていく
 - ・多世代交流することが、地域での支えあいにつながる
- (2) 効果的な情報発信の方法
 - ・多世代交流ができるしくみを既存のイベントにも広げていく
 - ・地域のイベントに対してアンテナをはり、周知し地域に発信していく
- (3) 相手の事を知れば助けられる
 - ・顔見知り・顔の見える関係をつくるための場が必要
 - ・お互いを知ることが支えあいにつながる



【具体的な取組】「優っくり村納涼祭に社協部会としてお手伝いし、多世代交流の機会をつくる」

①部会員を通じ それぞれの分野で、イベント開催の発信・周知

②多世代で作るフェルトマスコットペンダント作り

③工房「風」(障害者団体)のビーズ作品出展販売



⑤優っくり村納涼祭ブースのお手伝い



④目白大学手話サークルに依頼し、来場した参加者との(歌や会話)手話イベント



運営者：優っくり村、部会委員
 内容：優っくり村で実施する納涼祭を多世代交流ができるイベントとして支援する。
 会場：優っくり村新宿西落合
 参加費：入場無料 チケット代：300円（焼きそば、フランクフルト、カキ氷、綿菓子、ドリンク、ヨーヨー、宝引き、輪投げ）
 来場者数：95名（内小学生以下26名）男性：32名 女性：63名

【取り組みの成果】

地域に開かれた施設であることへの理解（※地域の理解）
 納涼祭の運営側に部会員が参加したことで、優っくり村と地域住民との連携が図れた。優っくり村の利用者のみで開催していた納涼祭に地域住民も参加できる企画としたことで、施設を地域住民が知る機会となった。施設利用者と地域住民が交流できた。

【多世代交流イベントを実施するときの課題】

- ・多世代交流イベントが開催されていても単発で終わってしまう
- ・安心安全な場所で多世代交流ができる機会・場を増やしていく
- ・お互いを知ることが支えあいにつながる

【取り組みの改善点】

来場者数が多く、施設の利用者がゆっくり納涼祭を楽しめなかった。
 次年度以降は施設利用者のみで納涼祭を開催する日と地域住民も参加できるようには2日間に分けて納涼祭を開催する等工夫をしたい。

【部会員 コメント】

いつの間にか、日常的に多世代交流をする機会が少なくなっている。多世代交流をするには「行動すること」が大切で、イベントを通じて自然と顔見知りになり、地域での支えあいのネットワークが広がった。顔の見える関係づくりは、ゆるやかな見守りにもつながると考える。

【優っくり村の職員さん 納涼祭後のコメント】

高齢者施設ということで近隣の方によっては敷居が高く、気軽に立ち寄れる場所ではなかった。しかし、今回の取り組みを通して地域の方、子育て世帯が高齢者と触れ合うきっかけにもなった。地域の人々が気軽に交流でき、互いが支え合う地域を目指せるよう、優っくり村新宿西落合がその架け橋となる場所になっていけたらと思う。

ボランティア紹介	多世代交流	施設との連携
<p>手話体験コーナー 目白大学 手話サークルオレンジ</p>  <p>いつでも体験ボランティア 納涼祭のお手伝い</p>	<p>落合第二地区社協部会 多世代交流のしくみづくり</p> <p>社協部会は地域をよりよくするための協議の場です。場所と交流のきっかけがあれば多世代交流が可能になる、と考え、施設の納涼祭を多世代交流ができるイベントにするしくみを部会が提案し、当日はお手伝いとして参加しました。</p> 	<p>優っくり村新宿西落合は地域密着型の高齢者施設です。今年は地域の方も納涼祭に参加できるしくみを一緒に考えました。</p> <p style="text-align: center;">周知協力</p> <p>工房「風」 西落合サロン 落合第三幼稚園 子育てサロン リバーサイド中井</p> <p>納涼祭のチラシを配布させていただき、当日はたくさんの親子連れや地域の方でにぎわいました。</p> 

<令和元年度 その他の部会の取り組み> 2019.11.03 西落合ハロウィンイベントに参加



もぐらたたきゲーム



子どもともぐらとふしぎな生き物作り



部会員も仮装



はい！ハロウィン(´o`)!



社協部会全体会報告【西圏域・柏木・角筈地区】

◆「多世代にわたる地域での支えあいを進めるための課題及びしくみへの提案」について

1 検討の方向性

昨年度からの提案に基づき、多世代交流を目的とした「柏木・角筈わいわいマルシェ」を実施し、多世代が集まるしくみづくり、さらには支えあいの具体化について検討していく。

2 検討の経過

回	開催日	検討内容
1	5月16日(木)	昨年度からの提案「柏木・角筈わいわいマルシェ」や既存団体の課題について検討し、多世代での支えあいの具体化について話し合った。
2	8月28日(水)	「柏木・角筈わいわいマルシェ」を実施することで課題を検証することとした。企画案をもとに実施に向けて具体的な課題出しを行った。
3	9月12日(水) (第1回作業部会)	「柏木・角筈わいわいマルシェ」実施のため、経費、物品の調達、許可申請、周知などについてさらに具体的な検討を行った。
4	10月15日(火) (第2回作業部会)	「柏木・角筈わいわいマルシェ」の実施にあたり、進捗状況の共有や検討事項について話し合い、実施前の最終確認を行った。
5	11月1日(金) (イベント実施)	「柏木・角筈わいわいマルシェ」と「西新宿冒険あそび・わんぱーく」と共催で実施した。
6	11月13日(水)	マルシェを実施した成果と課題の洗い出しを行い、今後に向けて話し合った。

3 課題及びしくみへの提案

【課題】

- ・子どもを対象とした地域活動の中には、高齢者が運営の担い手として参加しているところもある。活動に多世代が参加しているが、参加者同士、支えあいの意識をもって参加している人は少ない。
- ・地域にある交流の場の情報を知らないことで参加できていない人もいる。
- ・高齢者向けの施設で、多世代交流の居場所が開催されているが、高齢の参加者の中には、子どもが参加することを肯定的ではない人もいる。

【しくみへの提案及び提案へ向けた動き】

- (1) 多世代交流を目的とした場所で、地域住民同士が互いに知り合い、つながることで、支えあいの気持ちが生まれ、安心して暮らせるまちをつくることができる。
- (2) 多世代交流の場は、一緒に地域を支えてくれる担い手の発掘及び育成をする機会とする。交流の場の中で、手伝いから参加してもらい楽しみながら地域活動に協力してもらう工夫をする。
- (3) 地域の既存団体と課題を共有し、地域課題の解決へ向けてマルシェを共催する。

<具体的な取り組み> (実施済)

運営者：部会委員、部会委員が声をかけた地域住民及び「西新宿冒険あそび・わんぱーく」

内 容：既存の団体が実施する活動と共催でマルシェを実施した。

周 知：部会委員および共催団体が、地域団体・施設等にチラシを配布、SNSの利用、口コミなどで声かけをし、参加を促した。

日 時：令和元年11月1日 10:00~14:00

会 場：淀橋けやきばし公園(西新宿5丁目)

参加費：無料

経 費：部会委員から資金500円ずつを収集し、6,000円を原資として消耗品等を購入した。チラシ等一部は共催団体が支出した。

交流のしかけづくり：

- (1) 気軽に集まれる交流の場を作り、交流をもってもらう工夫（話のタネ、昔遊び、お茶の提供など）をした。周知は、部会委員が所属する様々な団体や知り合いの住民・施設などにチラシを配布したことで、多世代への周知が可能となった。
- (2) 運営者のつながりのある地域住民に得意なことを活かして参加してもらった。部会委員が参加者と積極的に交流をし、既存の社会資源の情報提供を行い、地域の支えあい活動を知ってもらった。
- (3) 地域の課題解決に向け、既存団体と共催で交流の場づくりを行った。運営に関し、共催することで、運営者・周知・資金・場所・物品・設備などの協力が得られた。周知、設備など、地元町会や共催以外の地域団体にも協力を得た。

実施するための強み：

- ・部会委員の中に、すでに地域で活動している方や地域交流に関する既存の団体に所属している方がいることで、既存の団体での経験を活かしたり、抱える課題を鑑みながら「柏木・角筈わいわいマルシェ」実施を進めることができた。
- ・地域の若い母親たちは横のつながりが強く、SNSによる情報共有力があり、若い世代に広く周知することができた。

マルシェを実施した効果：

- ・参加者 105 名（内訳：部会委員 11 名、協力者 4 名、親子 14 組 31 名、在住者 45 名、関係機関 14 名）
- ・見通しの良い公園で開催したことで、マルシェの様子に興味を持って、気軽に立ち寄ってくれる住民が多くいた。また、近所の店主がイベントに気付き、お客への宣伝をしてくれた。
- ・開催場所の近隣住民にイベント趣旨を説明しながらチラシを配布したことで、興味をもってくれた住民がいた。
- ・昔遊びなどのしかけにより、多世代が楽しみながら自然と交流することができた。
- ・参加者内訳では、開催場所である西新宿 5 丁目の住民が、42 名（全体の 40%）と最も多く、近隣住民が参加しやすいことがわかった。
- ・住民だけではなく関係機関の参加もあり、次回の開催には周知や開催協力をしたいとの申し出があった。
- ・物販の売り上げを地域の活動団体に寄付した団体があった。
- ・運営者も楽しんで参加でき、協力者とも交流ができた。
- ・イベントに参加した団体を知ってもらったことで、その団体に協力や参加をしたいという人がいた。
- ・町会や区みどり公園課などへイベント開催の相談をしたことで地域課題を共有し、また関係を築くことができた。

4 今後の展望

マルシェ実施により、多世代が集まり支えあい生まれる場としての効果が確認できた。よって、年に 1 回程度単発でのイベントを実施する。開催には、場所や協力者・資金の確保などの課題があるが、町会・自治会と連携を図ることで地域課題を共有しながら実施することが可能となる。次年度、まずは「西新宿冒険あそび・わんぱく」が年に 1 回程度実施していく。

「柏木・角筈わいわいマルシェ」交流のしかけ

(1) 交流をもってもらう工夫



お茶とコーヒーの提供を行った。



部会委員が支援している日系ブラジル人について知ってもらう機会とし、物販及び展示した。



昔遊び（折り紙・あやとり・お手玉）の提供を行った。

(2) 地域住民に得意なことを活かして参加してもらった



高齢者世代の方があやとりや折り紙ができるブースに参加した。



若い世代の方が手作りの小物のブースを出店した。



町会の方が自宅にある物品や手作りの布製品をを持ち寄り、バザーを行った。

(3) 既存団体との共催・協力



「西新宿冒険あそび・わんぱーく」は、本イベント共催のため、通常の活動場所から変更して行った。



チラシは共催である「西新宿冒険あそび・わんぱーく」が作成した。



淀橋町会に町会会館内のトイレ等の貸出、チラシ掲示に協力頂いた。

令和2年度からの
社協の
取り組み

「多世代にわたる地域での支えあいを進めるための課題及びしくみ」について

～令和2年度からの社協の取り組み～

新宿区社会福祉協議会 地域活動支援課

1-1 新宿区の現状～支えあいの意識や理解について～

- 1 一般高齢者(※)が「地域のつながりの必要を感じるか」の回答について
 - ・「必要だと思う」が9割近く(必要だと思う43.0%、どちらかといえば必要44.6%)ある。
 - ・一方で、「地域のつながりを実感している」人は5割強(感じる20.1%、どちらかといえば感じる32.5%)である。

平成28年度「新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査」
※一般高齢者…65歳以上の要支援・要介護認定を受けていない人

- 2 小学校高学年から若年層が「近所の人や同じ建物に住んでいる人とあいさつや話をすることがあるか」の回答として、
 - ・「ときどきする」が、小学5、6年生で45.4%、中学生46.1%、15～17歳までの青少年43.0%、18～39歳までの若者36.3%と年齢があがるにつれて低くなっている。
 - ・「ほとんどしない」「まったくしない」の回答は、小学5、6年生9.6%、中学生14.5%、青少年17.5%、若者35.1%となっている。

平成30年度「新宿区次世代育成支援に関する調査」

1-2 新宿区の現状～支えあいの意識や理解について～

- 3 在宅で生活する障害のある方が「日常生活で困っていることがあるか」の回答として、
- ・「将来に不安を感じている」が48.8%と最も多く、次いで「健康状態に不安がある」が38.1%、「経済的に不安がある」が34.8%である。
 - ・「障害や病気に対する周囲の理解」についての回答では、身体障害12.7%、知的障害17.6%、精神障害20.9%、発達障害38.6%、高次脳機能障害23.8%が「理解がない」と答えている。

平成28年度「新宿区障害者生活実態調査」

- 4 外国人については、「日本の生活で困っていることや不満なこと」の回答として、
- 「ことば」25.1%、「生活費など金銭的な問題」18.1%、「友人が少ない」17.2%、「日本人からの偏見・差別」13.3%、「日本人が閉鎖的である」12.3%であった。

平成27年度「新宿区多文化共生実態調査」

2-1 新宿区の現状～地域活動及び地域のつながりについて～

- 1 一般高齢者の「地域活動(町会、自治会、子ども会など)やボランティア活動等参加状況」について、
- ・「現在継続している」12.8%、「時々している」7.3%で、2割の方が活動に参加している。
 - ・現在参加していない方の今後の参加意向は、3割(してみたい6.3%、どちらかといえばしてみたい23.8%)である。
- 2 一般高齢者が、「地域活動(町会、自治会、子ども会など)やボランティア活動等に参加しやすい形」への回答として、
- ・「身近な場所で行われている」45.3%、「気軽に参加できる」38.4%、「一緒に活動する仲間がいる」29.5%であった。

平成28年度「新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査」

2-2 新宿区の現状～地域活動及び地域のつながりについて～

- 3 一般高齢者が「ボランティア活動を増やしていくのに必要なサポート」について、
- ・「活動自体に関する情報提供やあっせん」31.0%、「活動に必要な知識や技術などを教える研修や講座」27.7%、「活動の見学や体験機会の場」25.7%である。

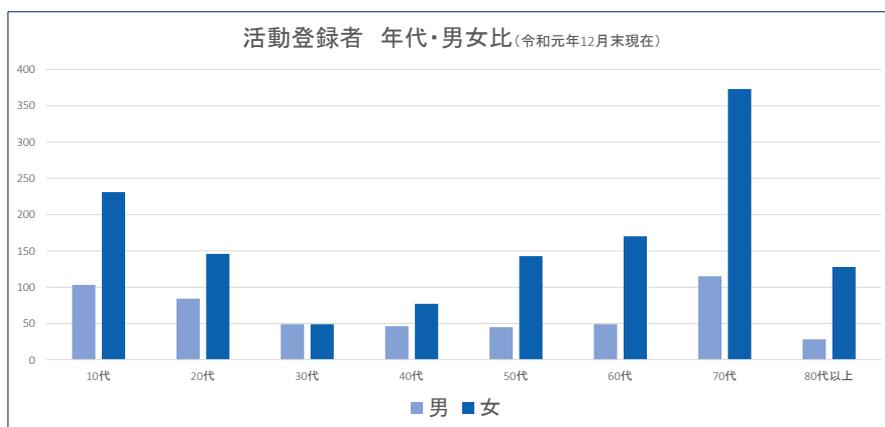
平成28年度「新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査」

- 4 「障害者差別の解消を推進するために力を入れるべきこと」の回答について、
- ・在宅で生活する障害者の回答は、「障害者差別解消に向けた取り組みに関わる情報の提供・発信」が29.8%、「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」が23.9%である。
 - ・障害のある児童(18歳未満)の保護者の方の回答について、「地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと」が52.2%、「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」が47.0%、「地域や学校等で交流の機会を増やすこと」が44.7%である。

平成28年度「新宿区障害者生活実態調査」

3 新宿区の現状～ボランティア・市民活動について～

【新宿社協に登録している活動者の内訳】



3 新宿区の現状～ボランティア・市民活動について～

- ・活動登録者の主な活動先は、高齢者、障害者、児童等の施設での活動、ちょっとした暮らしのサポート事業の活動、地域見守り協力員事業の活動等である。
- ・10代の活動登録者は、「いつでも体験ボランティア」(※)に登録する中学・高校生が多い。
- ・男性の活動登録者数は、全世代で女性と比較して少ない。
- ・30・40代の活動登録者数は、男女共に他の年代と比較して少ない。
- ・70・80代の活動登録者数は、全体の53.8%である。

※ いつでも体験ボランティア…年間を通じてボランティア体験が行えます。体験後、継続的な活動に参加することもできます。

4-1 多世代にわたる地域での支えあいを進めるための課題 【社協部会の意見より】

1 働き方や世帯構成等、生活様式の変化により、支えあいを意識することが少なくなっている。

- 核家族化により、多世代で生活することが少なくなった。
- 夫婦共働きにより、日中を生活の場である地域で過ごす時間が短くなった。
- 街中の個人商店が少なくなり、近所同士の会話が少なくなった。
- 高齢者、障害のある方、外国人などに対する知識や情報が不足しているため、理解につながらない。
- 地域イベントが開催されても、知らないために参加できない人がいる。

4-2 多世代にわたる地域での支えあいを進めるための課題 【社協部会の意見より】

2 多世代が参加できるイベントや活動に参加しても、継続的な関係につながることは少ない。

- 多世代交流イベントが開催されても、単発で終わってしまう。
- 住民同士が知り合う機会としてイベントは多いが、参加する側で終わってしまい、関係が継続する働きかけができていない。

4-3 多世代にわたる地域での支えあいを進めるための課題 【社協部会の意見より】

3 個々に活動している地域の住民や地域活動団体をつなげていく存在が必要である。

- 人と人、団体と団体とをつなぐ人や組織がないと、地域の関係性は深まらない。
- 地区の中で積極的に動いている人がいるからこそ、つながりが生まれる。
- 地域には助け合い、支えあいは残っていると思うが、個々の助け合いが面となって広がるような取り組みに発展しづらい。

5-1 令和2年度からの社協の取り組み

【課題】 1 働き方や世帯構成、生活様式等の変化により、支えあいを意識することが少なくなっている。

【取り組み内容】

- (1) 地域活動への参加が少ない世代は、これまで社協のアプローチが足りなかった世代であることから、今後はそれらの世代に働きかけを強化することで、まずは地域活動への関心を高め、さらには活動へつなげていきます。
- (2) 支えあいを意識するきっかけとして、高齢者、障害のある方、外国人など多様な人の理解につながる学びや交流の機会をつくります。
- (3) イベント等地域の情報を、これまで支えあいを意識する機会が少なかった人にも、ボランティア、民生・児童委員、町会・自治会等、社協とつながりのある皆さまと共に、人と人のつながりの中でお知らせしていきます。

5-2 令和2年度からの社協の取り組み

【具体的方法】

- ① 子育て世代、定年退職前後の方、在勤者や在学者等が興味・関心を持って参加できる講座の企画や地域活動体験を用意します。
 - ・地域活動者実践講座、ちよこつと・暮らしのサポート事業研修等
 - ・夏祭り、盆踊り、餅つき等の地域行事等楽しんで参加できるメニュー
- ② 部会により関係づくりができた専門職の協力を得て、多様な人の理解につながる講座や福祉教育(体験学習)を実施します。
 - ・ボランティア入門講座の中で、大人向けの福祉教育の実施
- ③ 町会・自治会や地域活動団体のイベントについて、拠点であるボランティアコーナーに積極的に情報を集めていきます。
 - ・情報は、掲示や配架だけでなく、対面や地域活動者の情報ネットワークを通じてお知らせし、参加してもらおうきっかけとします。

6-1 令和2年度からの社協の取り組み

【課題】2 多世代が参加できるイベントや活動に参加しても、関係を築くことは難しい。

【取り組み内容】

- (1) 同じテーマ(課題)で話し合う等、多世代の人が知り合いつながらる機会をより身近な場で参加しやすい方法でつくります。
- (2) 住民同士が声をかけあい、助け合いの関係が深まっていくよう、さらに地域での見守りのしくみづくりや、居場所活動の立ち上げ・運営支援を行います。

6-2 令和2年度からの社協の取り組み

【具体的方法】

- ① ボランティア交流会、各種講座や社協部会でのつながりが持続するような関係づくりをすすめていきます。
- ② 社協出前講座で地域の支えあいについて周知し、負担なく身近な地区のエリアごとに行える活動を地域住民とともに考えていきます。
 - ・各地区町会・自治会連合会では、支えあいの地域づくりが豊かに広がるための活動支援をしていることを周知し、町会・自治会のニーズにあった相談支援を行います。

7-1 令和2年度からの社協の取り組み

【課題】 3個々に活動している地域の住民や地域活動団体をつなげていく存在が必要である。

【取り組み内容】

地域の中に支えあい根付き確実に広がっていくよう、地区支援担当の力量を高めていきます。

7-2 令和2年度からの社協の取り組み

【具体的方法】

- ①地区支援担当が、コミュニティソーシャルワークを着実に行っていきます。
 - ・課題がある人への個別支援と、地域づくりの支援を包括的に行います。
新たな活動の立ち上げや運営支援等により、課題に向き合う地域住民を支援します。
 - ・関係機関との連携により適切な支援を行います。
 - ・講座を年間スケジュールで示し、通年講座プログラムとして、興味・意欲のある人が地域活動に参加しやすくします。
- ②担当事業を越えて意見・情報交換できる場として月1回の組織内連携会議を継続し、連携の具体的な方法話し合い、問題の解決につなげていきます。
- ③個別課題及び地域課題など多様な生活課題を解決していくため、区関係機関や専門職との連携をさらに強化していきます。

おわりに

令和元年度 社協部会では、多世代にわたる地域での支えあいに向けて、議論をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

議論の中から、地域では既にさまざまな取り組みが実施されていることを知りました。皆さまからいただいたご意見は、令和2年度の社協の各事業の取り組みにつなげ、実施してまいります。

委員の皆さまには、引き続き新宿社協へのご理解及びご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【令和2年度社協部会検討テーマ】

支援の隙間に埋もれるニーズに気づき、 つなげる地域になるには

令和2年度社協部会の検討テーマは、「支援の隙間に埋もれるニーズに気づき、つなげる地域になるには」について議論を進めてまいります。

新宿社協第4次経営計画の重点事業にかかげる「多様な生活課題を受け止める相談体制の充実と包括的な支援」を推進するためのテーマとなります。

引き続き新宿社協の取組みにご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。



**社会福祉法人 新宿区社会福祉協議会
地域活動支援課 (ボランティア・市民活動センター)**

■高田馬場事務所

中央地区(若松町・大久保・戸塚)・西地区(落合第一・落合第二・柏木・角筈)

〒169-0075 新宿区高田馬場 1-17-20

TEL 03-5273-9191 / FAX 03-5273-3082

■東分室

東地区(四谷・笹笥町・榎町)

〒160-0008 新宿区四谷三栄町 10-16

TEL 03-3359-0051 / FAX 03-3359-0012